

小学校で算術に珠算が採用された

明治5年(1872)に発布された学令で、珠算は廃止されましたが、その翌明治6年に、「珠算を指導してもよい」との学令が出されました。これはその当時、西洋の数学を教える先生が少なく、また庶民の間では珠算が普及していて、人々の生活に必要なものだったからです。



梁に定位点をつけるようになる

これまでのそろばんには、計算しやすいように梁の上に、米の単位(石、斗、升、合)や重さの単位(十、貫、百、十、匁)などが記されていました。しかし梁に単位が付けてあると、その単位以外の計算に都合が悪いので、文字の代わりに定位点をつけるようになりました。この時代は命数法に従って、4桁ごとに定位点をつけました。